

図 2※ 樽前山 最近の火山活動経過図 (1995 年 1 月～2007 年 5 月)

- ・ A 火口の温度は 1999 年から、B 噴気孔群の温度は 2002 年以降高温の状態が続いています。
- ・ 地震回数は 1996 年以降増減を繰り返しています。2005 年 11 月に一時的に地震が増加しましたが、その後は少ない状態で経過しています。



図3 樽前山 南側上空から撮影した溶岩ドーム  
(2007年5月22日撮影)

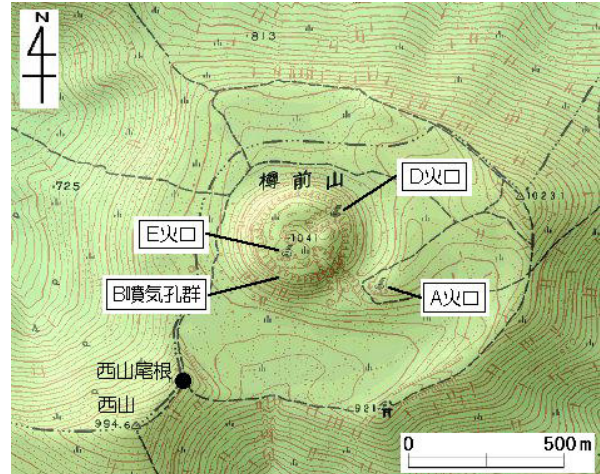


図4 樽前山 山頂周辺図

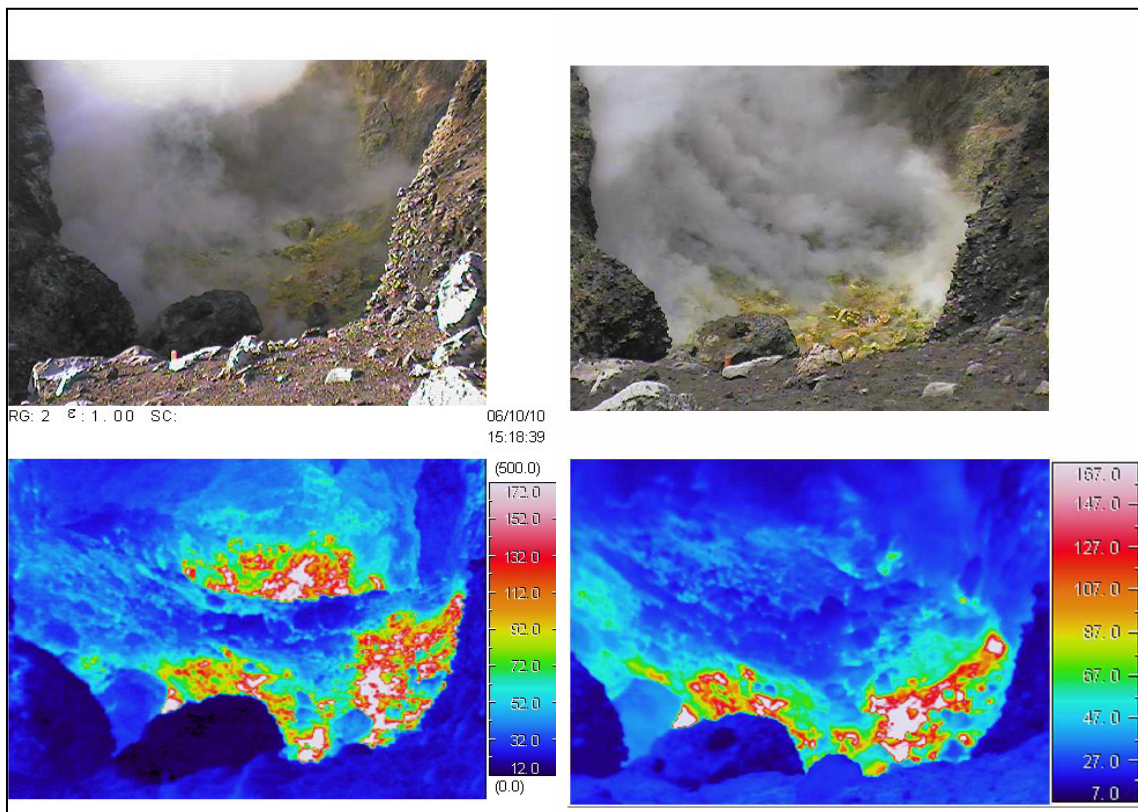


図5 樽前山 赤外熱映像装置\*による南東側から撮影したA火口の表面温度分布  
(左側：2006年10月10日、右側：2007年5月29日撮影、距離約40m)

【A火口】

- ・噴煙の勢いは弱いものの、強いSO<sub>2</sub>臭が認められました。29日に実施した赤外熱映像装置\*による観測では火口温度は約540℃(前回約520℃、2006年10月10日)で、依然として高温の状態が続いていました。
- ・昨年10月10日の熱映像(図5左)で認められるA火口奥の高温域は、その後発生した火口内の崩落により不明瞭になっています。

\*赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感知して温度分布を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

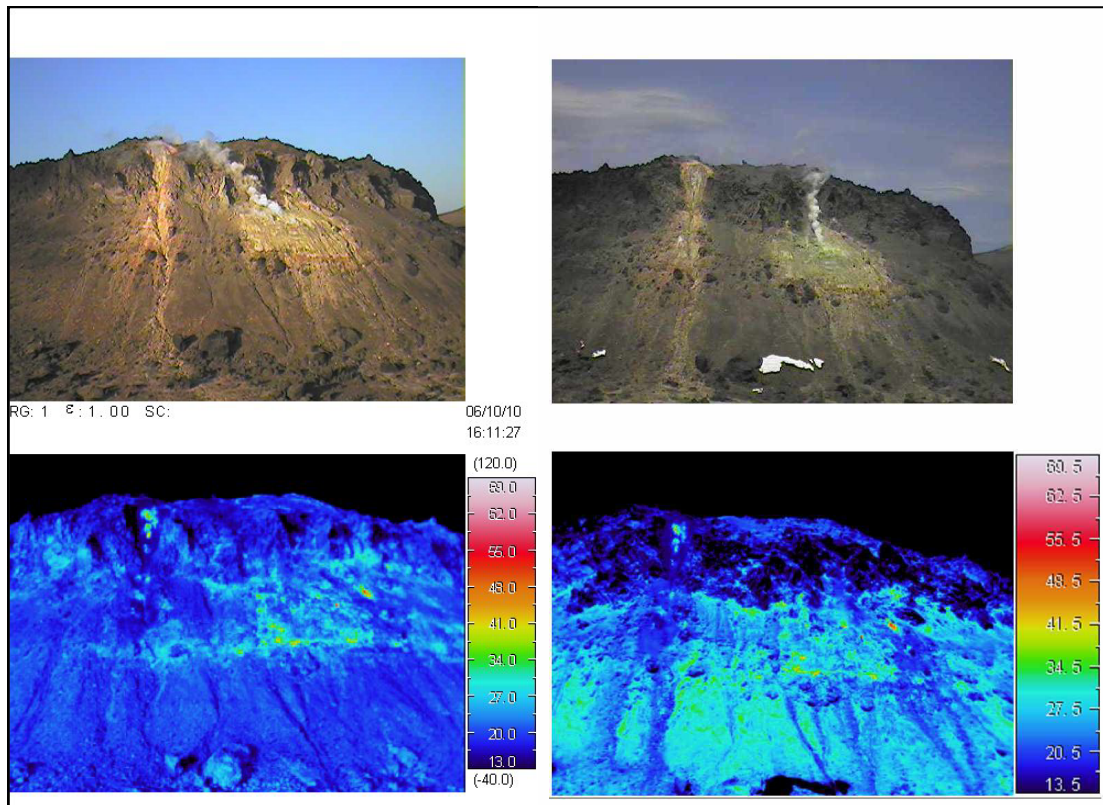


図 6 樽前山 赤外熱映像装置\*による南西側から撮影した B 噴気孔群の表面温度分布  
 (左側 : 2006 年 10 月 10 日、右側 : 2007 年 5 月 29 日 撮影、距離約 500m)

**【B 噴気孔群】**

複数の噴気孔から白色の噴気を勢いよく噴出し、強い SO<sub>2</sub> 臭が認められました。噴気温度の最高は約 340°C (前回約 390°C、2006 年 10 月 13 日 産業技術総合研究所の測定による) で、依然として高温の状態が続いていました。

表 1 樽前山 地震・微動の月回数 (C点: 図7の TARC)

2006~2007年	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
地震回数	61	105	95	69	49	28	123	42	87	40	49	56
微動回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

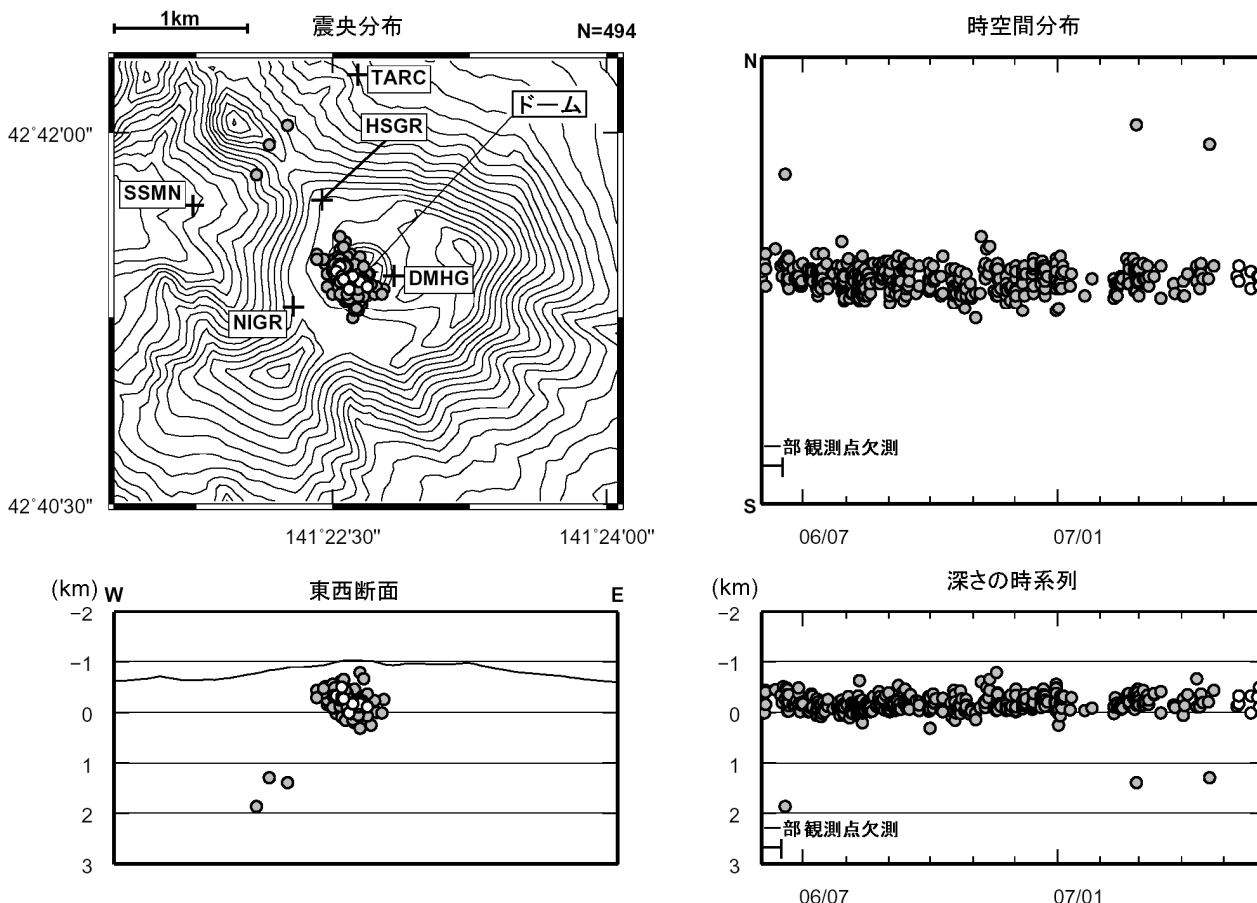


図 7 樽前山の震源分布図 (2006年6月1日~2007年5月31日、+印: 地震観測点)

○印は今期間 (2007年5月) の震源

●印は前期間までの11ヶ月間 (2006年6月~2007年4月) の震源

- ・ 前期間までの震源は山頂ドーム直下のごく浅い所 (山頂から深さ0.5~1km付近) に集中し、ドームの北西1.5km付近の浅い所にも分布しています。今期間に求まった震源もこの領域内に分布しています。

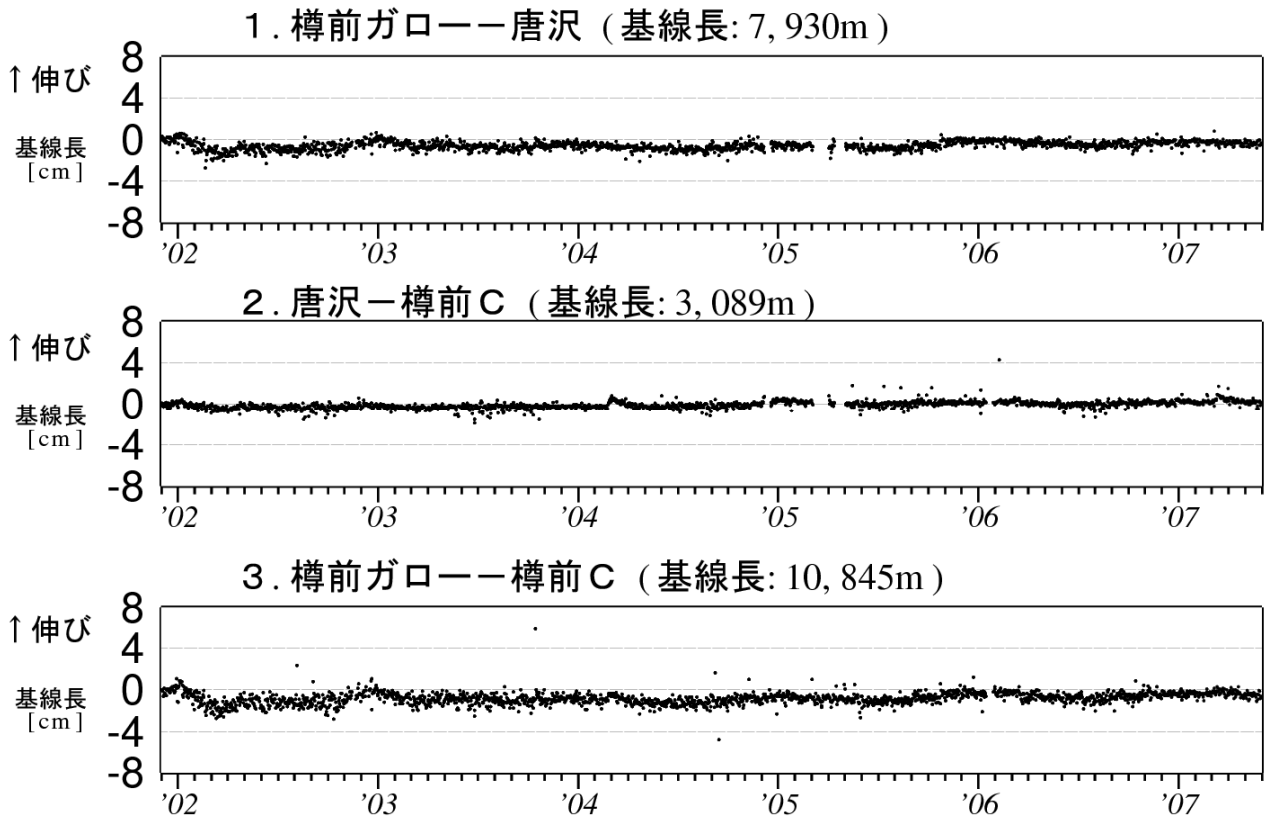


図 8 樽前山 GPS 連続観測による基線長変化 (2001 年 12 月～2007 年 5 月)  
 グラフの空白部分は欠測  
 図 6 の 1～3 は、図 7 の GPS 基線①～③に対応しています。

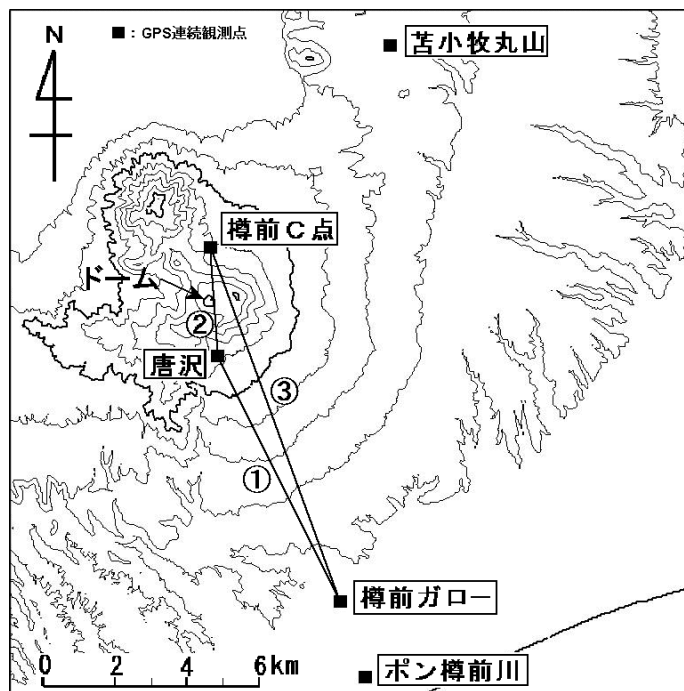


図 9 樽前山 GPS 観測点配置図